

会議録

会議の名称	平成26年度第2回西東京市子ども子育て審議会専門部会（計画部会）
開催日時	平成26年7月9日（水曜日）午前9時30分から11時30分まで
開催場所	西東京市防災センター6階 講座室2
出席者	委員：安部部会長、古川委員、小林委員、丸木委員、吉田委員 事務局：子育て支援部長 金谷、子育て支援課長 中尾根、保育課長 保谷、児童青少年課長 南里、子ども家庭支援センター長 磯崎、子育て支援課調整係 阿久津、倉田、田中
議題	1 審議 (1) 子どもアンケートについて (2) 現行「子育て・子育てワイワイプラン」の評価について (3) 次期「子育て・子育てワイワイプラン」について 1. 基本理念・基本方針について 2. 重点的な取組みについて 2 その他
会議資料の名称	1 西東京市子どもの実態と意識に関する調査 2 次期「子育て・子育てワイワイプラン」の重点的な取組み（案） （当日配布） 席上配布資料1. 子どもアンケートに関する基準部会員からの御意見 席上配布資料2. 現行「子育て・子育てワイワイプラン」の評価－重点的な取組みの評価－ 席上配布資料3. 基本理念・基本方針への御意見（その2） 席上配布資料4. 次期「子育て・子育てワイワイプラン」の重点的な取組みの構造化（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>・審議</p> <p>1 子どもアンケートについて （事務局が資料に沿って説明）</p> <p>○吉田委員： かなり文字が多く、子どもには大変なのではないか。問3については、不安に思うことを聴くと子どもの不安をあおるのではないかとの意見があるようだが、そこから課題が見つかることもあると思うので、設問には残した方がよいと思う。また、前回のアンケート結果との対比を考えると、設問をあまり変えてしまわない方がよいと思う。</p> <p>○安部部会長： 問3の「疲れること・不安に思うこと」の設問は、むしろ施策に反映する大事なポイントだと思う。前回の調査では受験や進路等が不安という回答が出ていた。</p> <p>○小林委員： この調査は、キャンプに参加する予定の子どもに実施するとのことだが、どのくらい</p>	

の年齢の子どもを想定しているのか。

○事務局：

キャンプの対象年齢は、小学校4年生から高校生までである。キャンプの参加者だけに限って行うのではなく、普段児童館等を利用している子どもにも実施したい。

○小林委員：

前回の調査と同様に、大体10歳以上という想定か。

○事務局：

そうである。

○安部部会長：

先ほど文字が多いという意見があったが、前回の調査ではきちんと回答してくれていた。今回も同年齢の子どもたちで、ボリュームは前回よりも絞られているので、特に問題はないと思う。

今回は全部マーク式になっているが、自由記述があった方が、思い掛けない意見が出たりしておもしろいと思う。少しでもいいので入れていただきたい。

○事務局：

自由記述を入れることは可能なので、加えたい。

○安部部会長：

前回の調査では、疲れること・不安に思うことだけではなく、夢中になれることも聴いている。夢中になれることがあった方が、バランスがとれると思うので、今回も入れた方がよいのではないか。

問4と問5の違いが分かりにくい。問4は現状を、問5は希望を聞いているが、あまり差が出ないのではないか。

○吉田委員：

問4・問5は、同じ設問だと思う子どもが出ると思う。エラーが出る可能性のある表現は、できるだけ避けるべきである。例えば、問4は「あなたは普段どこで放課後を過ごしていますか」、問5は「本当はどういう所で過ごしたいですか」としたら分かりやすいだろう。

○安部部会長：

問6について、ご意見はないか。

○小林委員：

ここで何を聞きたいのかが、子どもに分かった方がいいと思うので、設問をジャンルごとに分け、導入として、「生活のことを教えてください」のような見出しをつけるとよい。今のことと、これからの希望とに整理すれば、居場所についての問5と問6は、ひとつにまとめて聴くことができるのではないか。

そのように整えると、子どもたちがこれからどのように生活していきたいかをこのアンケートで訴えてほしい、という思いが伝わると思う。

○安部部会長：

確かに、そのように整理すれば分かりやすくなる。導入の文言は、前回の調査にも入っているので、参考にするとよいと思う。

問7については、削除した方がよいとの意見があるようだが、非常に重要な設問だと思うので、ぜひ残したい。この設問によって、年齢に応じてどのようなことをどのように決めたいかという変化が分かり、子どもの自立にかかわる事柄を見ることができる。前回の調査から分かった課題としては、市にかかわることについて、自分で決めたいとあまり思っていないことが分かった。そのような傾向がまだ続いているのか、あるいは変化しているのかを見ていくことは、重要だと思う。

○古川委員：

問7を削る方がよいと意見を出された方は、この設問によって、子どもたちが何でも自分で決められると誤解して、社会的なルールの崩壊につながるという危惧をお持ちなのではないかと思う。今回の調査では、お互いの立場を理解しながら決めることがもちろん大切で、それを踏まえた上で聴いているという補足説明を加えるとよいと思った。

○安部部会長：

確かに、このままでは子どもの市民性や公共性を育てていくという趣旨が分かりづらいかもかもしれない。

○古川委員：

このアンケートを初めて目にした人が、その趣旨を理解するのは難しいと思う。子どもの権利についても、同様に理解されにくい面がある。例えば、夜遅くまで親の意思で子どもを外出させることや、アルコールや騒音のある環境が、子どもの権利を阻害しているという意識がない大人が増えているように思う。

この設問では、子どもの規範意識も見ることができると思う。学校の教室では非常によい発言をして、優しい心が育まれていると感じられるのに、廊下では相手を罵倒するような言葉が飛び交っている現状もある。その辺のギャップの埋め方を考える上でも、子どもの意識を把握することは必要なもので、この設問は決してまずくはないと思う。

○安部部会長：

確かに、対策を考えるには、まず意識を把握する必要がある。

○小林委員：

初めてこの設問を見たとき、親の離婚・再婚、授業の内容等について聴くことに驚いたが、「自分で決めたい」というのは、「自分の意見を言いたい」ということも含むと捉えれば、理解できる。このような設問は非常に珍しいと思うので、大変興味深い。前回との比較も参考になると思う。

○吉田委員：

選択肢の上段が家や自分のこと、中段が学校のこと、下段が地域のことになっているが、そのカテゴリーを左に明記したら分かりやすいと思う。それぞれのカテゴリーの項目も、答えやすいものを上に並べ替えたらいいのではないか。

また、前は恋愛・宗教という項目もあったが、今回はなくなっている。宗教に関しては特に意見はないが、恋愛に関しては、今は恋愛に消極的だということが問題になっているし、少子化問題にもつながることなので、ぜひ聴くべきだと思う。

○安部部会長：

私も恋愛の項目は、あった方がいいと思う。

「金額の高い買い物」については、前は「引っ越し」と併せて聴いた。前は、親が勝手に家を買って引っ越しを決めることに子どもは怒っている、子どもにも相談してほしいという意味で入れたので、今回も「引っ越し」を入れた方がこの意図が伝わりやすいと思う。

○小林委員：

前回と同じ聴き方にした方がいいと思う。

○古川委員：

「引っ越し」は、友人関係やまちへの愛着等とも絡み合う項目だと思う。

「決めたい」という言葉については、他の表現にした方がいいと思う。

○小林委員：

括弧書きで「自分の意見を言う」と内容を加えてはどうか。

○安部部会長：

では、「どうやって決めたい（意見を言いたい）ですか」と修正した上で、問7は残し、スペースがあれば自由記述欄も入れるということではどうか。

（異議なし）

2 現行「子育て・子育てワイワイプラン」の評価について

（事務局が資料に沿って説明）

○小林委員：

「検討中」の事業のうち、子どもの権利に関する条例については、活動休止になっているとはいえ、この評価でよいのだろうか。

○安部部会長：

しかしながら、子どもの権利に関する条例の取組みは進んでいないので、このような評価しかできないと思う。

○古川委員：

他の事業も含め、時間をかけて確認した方がいいと思う。

○安部部会長：

では、修正意見がある場合は、16日までに事務局に出していただきたい。

3 次期「子育て・子育てワイワイプラン」について

1. 基本理念・基本方針について

(事務局が資料に沿って説明)

○安部部会長：

席上配布資料3の1ページ2の「子ども権利の実現と尊厳の確保」という修正意見については、いかがか。

○古川委員：

尊厳を入れた方が、とげとげしさが緩和されてよいと思う。

○安部部会長：

尊厳という言葉は分かりにくくはないか。

○丸木委員：

市の基本計画で尊厳という言葉が使われている。基本計画ときちんとつながって、この計画を立てていることが分かるよう、尊厳という言葉を入れた方がよいと考える。

○安部部会長：

では、1ページ2の修正に関しては採用としてよいか。

(異議なし)

○安部部会長：

1ページ3の「保育所」を加えるという修正意見については、いかがか。

○古川委員：

保育所は、ここに挙げられている学校・地域・行政のどこに含まれているのか分かりにくいので、加えたいという気持ちは分かるが、保育所だけでなく認定こども園等も入れるのか検討が必要となる。ここにすべての施設を入れるのは、難しいのではないか。

○小林委員：

「保育所」ではなく、「子育て支援機関」としてはどうか。そうすれば民間のグループ、幼稚園等も含められる。

○安部部会長：

では、「保育所」ではなく「子育て支援機関」を入れるということによいか。

(異議なし)

○安部部会長：

2ページ1の修正意見については、「親」に注釈を付けて、祖父母や様々な家庭も含むという説明を入れる方法もあると思うが、いかがか。

○丸木委員：

祖父母が育児をしている等、子育ての状況は様々なので、単に「親」という限定的な表現とするより、育児をしているすべての人と捉えられるような表現がよいと思う。

○古川委員：

私も「親」だけでは足りないと思ったが、育児や子育てとも少し違うように感じる。子育てをしている「人」への支援を言いたいのだと思う。

○安部部会長：

基本理念・基本方針を通じて「親」という言葉が何度も出てくる。それらはすべて、母親と父親だけではなく、祖父母をはじめ、子どもを育てているすべての人を含むということを、注意書きで入れることとして、本文の文言は「親」としてはどうか。

○古川委員：

それがよいと思う。

○安部部会長：

では、2ページ1は、表現は現行のままで、注意書きで補強することとしたい。次に、2についてはいかがか。

○吉田委員：

私は2で「子育て支援」を「親支援」にしてはどうかとの意見を出した。子どもを持ち、親になっていく過程で、支援がないためにつまずいている方が非常に多い。以前は、井戸端会議等で地域で学び合っていた。このようなことはとても大事な情報源だが、今はこのような学び方が少ないので、親になることの支援も入れていただきたい。

○小林委員：

つまり、親育ての支援の部分強化ということか。

○安部部会長：

そうである。では、「親支援」に変えて提案することにした。

○吉田委員：

3の丸木委員の修正意見は、「親支援」の視点につながっており、素晴らしい表現だと思った。

○古川委員：

3の「子育ての楽しさ」については、子育ての大変さばかりが語られて暗い気持ちにならないよう、楽しさについても入れた経緯がある。

○吉田委員：

楽しいことは既に男女で共有されていると思うし、「子育ての過程とその時々思い」には楽しさも含まれているので、「子育ての楽しさ」という文言を入れると重複するように感じる。ここでは、男性が見えていない女性の負担の部分を共有してほしいという思いを主に伝えるということで、「子育ての過程」だけでよいのではないか。

○古川委員：

客観的なイメージとしては、子育ては大変だということが前面に出ていて、重く感じられるので、やはり、子育ての喜びのようなものも入れた方がよいと思う。「子育ての過程とつらさや楽しさなど、その時々思いを共有し」としてはどうか。

○丸木委員：

楽しさだけを共有すると捉えられては困るので、修正案を出した。どんな時も共有をしないとイケないという意味合いなので、それが伝わる言葉になればよいと思う。

○安部部会長：

では、「子育ての過程と、楽しさやつらさなど、その時々思いを共有し」としてよいか。

(異議なし)

○安部部会長：

次に、4ページ2・3の修正意見については、いかがか。

○丸木委員：

ここも基本計画に合わせて「主体的」を入れるとよいと思った。

○安部部会長：

プラスの表現なので、入れてもよいと思う。

タイトルは、「子どもも主体的な参加ですすめる」に修正するというのでよいか。

(異議なし)

○安部部会長：

4ページ4～8の修正意見については、いかがか。

○吉田委員：

これを全部反映すると、全体的に崩すことになる。

○事務局：

審議会では、あまり大きくは変えないという方針が示された。また、これまでの積み重ねで今に至っていることも踏まえて、検討いただければと思う。

○安部部会長：

内容的には修正案も現行もあまり変わらないように思うので、絶対に変えた方がよい

ところは意見を出していただき、それ以外は、原則現行のものを尊重したいと思う。

○小林委員：

基本的には現行のものでもよいと思うが、他の項目と併せて整理した方がよいのではないかと考え、修正案を出した。タイトルに主体的という文言を加えたので、説明文については現行のままで抑えておくのもよいと思う。

○古川委員：

それでよいと思う。

○安部部会長：

では、現行のままをしたい。5ページ1～5の修正意見については、いかがか。

○吉田委員：

「おとなとしての役割」という表現が分かりにくいと思ったので、役割とは結婚して妊娠・出産・子育てすることだとはっきり書いてはどうかと考え、修正案を出した。

○安部部会長：

そう書くのは危険ではないか。おとなや家族のあり方にはいろいろな形がある。結婚・妊娠・出産をしていなくても、おとなが子どもに関わっていくような社会を目指すべきだと思う。

○吉田委員：

これはワイワイプランの中の「おとな（親）になることを支える」という基本方針の説明なので、それに沿った形で考えた。

○安部部会長：

「おとな（親）」というのは、イコール「大人」ではないので、いろいろな親のなり方、おとなのなり方があるという含みを持たせておいた方がいいと思う。

○小林委員：

自分でご飯を食べられるとか、社会人になるというところが、大事なのだと思う。

○古川委員：

そういう意味であれば、あまりはっきり書かない方がよいのではないか。

○小林委員：

ただ、現行の説明では不十分に感じる。

○古川委員：

例えば母子カプセル等、何十年も前からあった問題が、また違った社会の形成の中で出てきたりしているので、その辺りを危惧して修正案を提案されたのだと思う。

○事務局：

「結婚から妊娠、出産、子育て」という順番になるとは限らないので、その辺も考慮していただければと思う。

○安部部会長：

確かに、養子縁組等もある。それでは、ここの説明文はそのままにしておくことでよいか。

(異議なし)

○安部部会長：

後半の段落の「家庭・学校・地域・行政が一体となって」との部分は、先ほどと同様に「子育て支援機関」を入れた方がよいと思う。

○吉田委員：

「子育て支援機関」のほかに「保育関連機関」という言葉もよく使われている。人によっては、子育て支援機関という表現は地域の子育ての団体がやっているように捉えるかもしれない。その人の立場で捉え方が変わってくるので、難しいところだと思う。

○安部部会長：

では、この表現については、7月23日の審議会で決めることにしてはどうか。

(異議なし)

○安部部会長：

6ページ・7ページの1～9の修正意見については、いかがか。

○小林委員：

タイトルは基本的には基本理念に合わせた方がよいと思うので、基本理念の「男女共同」という言葉に合わせて「父母共同の子育てを広げる」としてはどうかと考えた。

○安部部会長：

そうであれば「男女共同での子育てを広げる」でもよいのではないか。

○丸木委員：

私としては、「子育て家庭」という表現の方がよいと思う。男女の部分に関しては、先ほどのような注意書きで対処してもよいのではないか。

○吉田委員：

現行の説明文の中段の「子育て家庭が孤立すると、親にも子どもにもさまざまな問題が起きてきます」との文章について、理念で問題提起はされているので、方針ではより詳しく、強く書いた方がよいと考え、修正案を出した。この部分は特に取り上げていかないと変わらないと思う。例えば虐待の相談件数は、20年前の60倍くらいになっている。そこをきちんと捉えて方針に盛り込んでいかないと問題は解決しないと思うので、「孤立化を防ぐ」、「虐待を予防していく」ということを明文化すべきだと思える。

○小林委員：

そういう視点はとても大事だと思う。ただ、それを基本方針3に入れるか、基本方針4に入れるかが悩ましい。家庭の問題の深刻化や孤立化というのは、男女共同の子育てではなく、地域で見えていかないと厳しいのではないかな。

○安部部会長：

4つの基本理念と4つの基本方針がそれぞれ対応するというイメージではなく、基本理念は全部につながっていくと捉えた方がよいのではないかな。

○丸木委員：

今日のいろいろな社会問題の一因として、子育てで孤立しているということが大きいので、その点を明確にすることには賛成である。このことを計画の中で解決していこうとする姿勢を出すかどうかで、この計画自体がだいぶ違ってくると思う。

○吉田委員：

タイトルはそのまま説明文を変え、中段に5を組み入れるとよいと思う。

○安部部会長：

前後の段落は現行のままで、現実を反映したような形に変えるということで、中段だけに5と9を足して整理してはどうか。

○小林委員：

9は理念の男女共同のところで書いているので、このすべてを入れる必要はないと思う。ただ、女性の負担のことばかりで暗い気持ちになるという意見があったので、女性も社会進出していることや、そういう人も支援するという書きぶりにしてはどうか。

○古川委員：

9の説明文も、現代的な背景を的確に捉えてつつ、親としての自覚や子育てが楽しいと思えるような援助など、とても良い表現なので、使わないのは惜しいと思う。

○吉田委員：

前半を9で後半を5にしてはどうか。

○古川委員：

9の「親自身も子どもが生まれることにより、親となります」というのは、形式上は親になるという意味で書かれているのか。

○小林委員：

子どもを生んだだけでは親にはなれず、子どもと一緒に親も育つという意味で書いている。この部分については、今の皆さんの意見を踏まえて、基本的に多くは直さないということで、事務局に考えていただいてはどうか。

○安部部会長：

では、5と9をベースにして、事務局で考えていただければと思う。

○事務局：

9の女性の社会進出が進んでいるという部分と、5の孤立化が進んでいて、地域でそれを予防しなければいけないという部分と、最後にまとめとして、楽しい部分も増えるように援助していきたいというような内容でよいか。

○安部部会長：

とてもよいと思う。

次に、8ページ基本方針4の1～4の修正意見については、いかがか。

○吉田委員：

3については、「協働」ということが基本構想で重視されているので、ここも「協力」ではなく「協働」とした方がよいと思う。

○安部部会長：

皆さんも同意されているようなので、3は反映することとする。

では、「協力」を「協働」に修正するのみで、ほかは現行のものを維持するという
ことでよろしいか。

(異議なし)

○安部部会長：

最後に、9ページの、新規に基本方針5「災害と子ども・子育て支援」を加えること
と、その説明文については、いかがか。

○吉田委員：

2については、防災・減災の情報提供が不十分なので、入れた方がよいと思った。市
によっては、ホームページに1週間生き抜くためのサバイバルクッキングなどのいろい
ろな資料を出している所もある。そういう情報提供や周知は必要だと思う。

○安部部会長：

2は、「防災・現在の情報提供が十分ではなく、身近なものとは言えません」として
はどうか。

○吉田委員：

確かに身近ではないというのが実情である。乳幼児は水分や食べ物を切らすと脳に障
害が出やすいが、そういう意識のない人も多い。また、父親を対象にした防災クッキ
ングのイベント等を開催しても、参加者は意識の高い人だけである。市でも、体験系
の講座を無料で開催する等、いろいろな人に参加を呼び掛けていただきたい。

○安部部会長：

では、基本方針5「災害と子ども・子育て支援」とその説明文を新たに加え、は

「子どもたちにとって防災・減災の情報提供が十分ではなく、身近なものとは言えません」と表現を変えて採用するということでよいか。

○小林委員：
災害の部分については、必ず入れることになるのか。

○安部部会長：
提案である。

○小林委員：
防災関係は防災計画で考えるということであれば、こちらでは外してもよいのではないか。防災まで入れるとなると、この計画に盛り込む内容がかなり多くなるのではないかと思う。その辺の、他計画との役割分担はどうなっているのか。

○事務局：
ご指摘のとおり、ワイワイプランの中には、食育推進計画や障害者福祉計画に関わる部分も網羅的に入っているが、災害、健康、障害、教育等については他部署が専門になるので、こちらで議論するのは少し難しいところもある。

○安部部会長：
乳幼児の防災・減災に関しては、ワイワイプランでも取り組んでいかないと、実際の内容が伴わないのではないか。

○事務局：
その辺りも防災基本計画の中で触れることになると思う。

○吉田委員：
生活全体で考えると、縦割りでは分けきれず、重複する部分が出てくることは仕方がないと思う。子育ての計画でも防災を考えるというのは、本当に必要なことだと思う。

○安部部会長：
基本方針5についても、次の審議会にかけるということにしてはどうか。
(異議なし)

○事務局：
「情報提供が十分とは言えない」との部分については、被災した場合の対応に関する情報か、防災に関する情報か読み取れないので、もう少し整理する必要があると思う。

○吉田委員：
被災までいく前の段階だと思う。自助・共助・公助で言えば自助の、家庭内で備えておかななくてはいけない部分の情報の周知が必要だと思う。

○安部部会長：

乳児健診の時などに、リーフレットを配るなどするといいいのではないか。

○小林委員：

基本方針に入れるのではなく、施策の中に盛り込むこともできるのではないか。例えば、「施策の方向」の4-4「子ども・子育て家庭のためのまちづくり」には防犯対策も含まれると思うので、ここに防災対策の項目を立ててはどうか。防災という視点を忘れないことが重要だと思う。

2. 重点的な取組みについて

(事務局が資料に沿って説明)

○安部部長：

これまで16あった重点的な取組みを、キーワードで整理したことで、とても分かりやすくなったと思う。ただ、子ども参加が「まもる」に入っているのは、違和感がある。

○小林委員：

分かりやすくなっている。防災も入っており、よいと思う。

○吉田委員：

「はぐくむ」と「ささえる」の違いが分かりづらい。

○安部部長：

「はぐくむ」は主体をつくるということで、「ささえる」は周りの機関・団体等ということだと思う。

○吉田委員：

このキーワードの横に、説明を書かないと、読む人は分からないと思う。資料4のように、キーワードを先に出して、括弧書きで「子育て家庭の支え合い」等を書く形にした方がよいのではないか。このイメージ図については、もう少しよく見て、意見があれば審議会を出したいと思う。

○丸木委員：

私も、こういうキーワードにまとめるということには異論はないが、各重点的な取組みをどれに入れるかについては、もう少し考えさせていただきたい。

○吉田委員：

11の「子ども総合支援センター」とは、子ども家庭支援センターのことか。

○事務局：

市の計画の中では、子ども家庭支援センターは虐待を含めた支援を行い、総合支援センターは、「こどもの発達センターひいらぎ」も含め、すべての相談を行うという位置づけである。

○安部部会長：

おおむねこの枠組みで審議会に出したいと思う。

2 その他

○事務局：

次回は、審議会を、7月23日午後7時から、田無庁舎の503会議室で開催する。

なお、7月6日に開催した子ども・子育て支援新制度説明会は、参加者は160人であった。説明内容や資料については、既にホームページに掲載しており、そこでも意見を出していただけるようにしている。いただいた意見は、審議会でも報告する。

○吉田委員：

市民説明会では、説明会の質疑応答をホームページに掲載すると答えていたと思うが、それはいつ掲載されるのか。

○事務局：

質疑応答は、まず審議会資料としてまとめ、会議終了後その資料を掲載する。

○安部部会長

以上で本日の専門部会を終了する。